特集
WORLD TREND FEATURE

中国農村研究のツール

寶劔久俊

農村で頻発する農民暴動や食品安全問題によって、中国の農業・農村に対する関心は日本でも高まっており、それらに関する情報は近年、大きく増加してきている。インターネットの急激な発展がそれを後押ししているが、その一方で根拠の曖昧な情報や不安を煽る報道も増えている。

情報が氾濫し、データの真偽を判断する目が重要になっている現在こそ、現地調査を通じた一次情報の収集と、過去から培ってきた書誌情報の検索方法の利点を見直す必要がある。そこで、中国農村研究に関する資料収集方法について、筆者が研究を始めた一九九〇年前半と現在を対比させながら、簡潔に説明していく。

●書籍

一九九〇年代当時、日本語書籍については大学図書館が所蔵する書籍情報をOPACで検索可能であり、一部の未入力書籍をカード目録で検索する以外は、主にOPACを利用して検索した。他方、中国語書籍に関しては当時、データベース化が開始されたばかりだったため、基本的に著者名別、主題別に整理されたカード目録を手で検索するという、地道で手間のかかる方法を行っていた。

現在は、全国の大学図書館等が作成する総合目録データベース（Webcat）によって、ほとんどの日本語書籍と中国語書籍の検索が可能になった。従って、最近は以前のようにカード目録を利用することは少なくなったが、カード目録で体得した検索のノウハウと勘はOPAC検索でも生きている。

●雑誌

日本語の雑誌論文目録では、アジア経済研究所出版の『発展途上地域日本語文献目録』を外すことはできない。一九八〇年代から九〇年代前半にかけて、本書は途上国の雑誌論文目録として唯一無二であり、この目録から論文を探していった。現在は、主に国会図書館やアジ研図書館のOPACで雑誌記事検索をしている。

他方、農村関係の中国語学術雑誌を定期購読している図書館は非常に少ない。そのため、中国国内の研究動向を理解する上で有用であったのが、中国人民大学によって編集された『復印報刊資料』であった。この資料は、中国国内で出版されている多くの学術雑誌の中から、学術的水準の高い論文を選択し、それをテーマごとに（思想、人口、経済、社会、法制など）冊子体に編集して毎月出版したものである。

『復印報刊資料』のうち、農村関連のものとしては「農業経済導刊」が存在する。筆者もその最新号とバックナンバーを定期的にチェックし、中国国内の研究動向を把握した。現在では『復印報刊資料』の電子版もあり、最新号やバックナンバーの電子検索に加え、全文情報も含まれている。

中国農村に関して定評のある中国語学術雑誌として、『中国農村経済』、『中国農村観察』、『農業経済問題』の三つが挙げられる。いずれの雑誌も、現在までウェブサイトをもっていないため、インターネットで掲載論文を網羅的に調べることは難しい。

書籍もそうだが、中国語論文の場合、論文のタイトルと中身が必ずしも一致しないものが非常に多い。そのため、論文のタイトルや著者名だけに頼るのは危険と思われる。従って、実際に現物にあたって、その

価値を評価することが極めて重要である。筆者も特定のテーマに関する論文を執筆する際、上記の雑誌の最近数年分をすべて自分の目でチェックしながら、必要な論文を探すという作業を行ってきており、それは今も全く変わりない。

●新聞

農村関係で有用な新聞では、『人民日報』や『農民日報』などがある。前者については冊子体の索引や縮刷版も存在しているので、それらを利用しながら過去の記事を読んでいった。他方、後者については縮小版が存在しなかったため、現物かマイクロフィルム化されたものを閲覧したりした。

他方、インターネットの発展によって、中国語新聞の情報入手は遙かに容易になってきた。『人民日報』については、全文閲覧と過去数年分の新聞記事の検索が可能であり、『農民日報』の主要な記事がウェブサイトで閲覧できる。

また、中国農村に関するウェブサイト（「人民ネット」、「三農在線」、「中国農村信息ネット」など多数）では、各種新聞から引用してきた農村関係の記事や関連法規などが、毎日更新されている。それによって新聞記事の検索にかかる時間が大幅に縮小された。反面、インターネットで収集可能な新聞記事は膨大となるため、取捨選択能力が今まで以上に重要になっている。

●統計データ

中国では膨大な数の年鑑類が、毎年出版されている。農村関係に限っても『中国農業年鑑』、『中国農村年鑑』、『中国農村住戸調査年鑑』などの年鑑類が出版されており、その数は増加の一途を辿っている。

日本の大学図書館や研究機関で、中国の統計類を所蔵するところもあるが、農村関連の年鑑を定期的に購入しているとなると、数は限られる。また、日本で統計書を購入すると、購入価格は非常に高いため、年鑑類を所蔵する図書館を訪問するか、年鑑類を取り扱う北京の専門書店に行き、大量購入する以外、有用な方法はなかった。

最近では、中国全体や各省の統計データの速報値（月次、四半期、年次データ）が、国家統計局や各省の統計局のウェブサイトで定期的にアップされるようになった。また、過去の統計データについても、ダウンロードできるようになり、マクロデータの収集も若干容易になっている。

もう一つの大きな変化として、データ・アーカイヴを設立する研究機関が増えてきたことが指摘できる。データ・アーカイヴとは、統計調査の調査個票データを収集・保管し、学術的目的で二次的な利用のために提供する機関のことである。中国農村に関する調査データも、データ・アーカイヴに寄託されてきている。代表的なアーカイヴとしては、ミシガン大学社会調査研究所のICPSR、香港中文大学のDCSや世界銀行によるLSMS（生活水準指標調査）などが挙げられる。

一定の手続きを踏めば、申請者は信頼性の高い統計調査の個票データを直接、利用することができる。しかし、中国農村の現場感がない状態で安易にデータ分析を行うと、農村の実態と乖離した解釈や誤った含意を導き出してしまう危険性も高いため、データの慎重な取り扱いが求められる。

●その他資料

その他で有用なのが、『県志』と呼ばれる県の地方志である。県志には各県の歴史的変遷や政治経済状況、社会動向など多様な情報が含まれる。主に一九八〇年代中頃から地方志叢書の一部として編纂され始め、現在までに多くの県志が出版されている。

記述内容の量と質は、県志によってばらつきが大きいため、まず現物を手にとって内容を確認して欲しい。また、県志によっては出版から既に二〇年近くの年月が経過しており、県の現状が編纂当時と大きく変化してしまっているケースもある。

最近では、中国でも県政府がウェブサイトを開設していたり、県の統計年鑑を編纂していたりするので、それらの資料や現地での一次情報と合わせて、県志を利用することが望ましい。

（ほうけん　ひさとし／アジア経済研究所開発研究センター）